

# 今 津 日 赤 だ よ り

VOL. 17

2013年夏号

## 目 次

2013年度 新年度を迎えて	1
新任ドクター紹介	2
新任職員紹介	
ナースのまど	3
当院の医療安全活動について	4
お薬Q&A・医事課だより	5
第1回 連携先リレー紹介	6
マラソン大会で地域との交流を実感	



## \* 病院理念 \*

\* 基本理念 私たちは人道・博愛の赤十字精神のもと患者様に信頼される医療を行います。

\* 基本方針 1. 地域医療

地域の皆様から安心して健康を任される病院を目指します。

2. 全人的医療

病気を治すだけでなく、病める人を癒す全人的医療を提供します。

3. 医療と福祉の架け橋

医療が終わった後も、その方に適した生活を送っていただくためのお手伝いをする医療福祉センターを目指します。



今津赤十字病院

日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

# 2013年度 新年度を迎えて

～2025年モデルを視野にいれながら～

当院は、福岡市西区における公的医療機関として、①地域医療②全人的医療③医療と福祉の架け橋の3つを基本方針に掲げ、現在は高齢者急性期疾患とりハビリテーション、並びに認知症の診療を大きな核とし、通称「老年病センター」として、昭和4年開設以来84年目の新しい年度を迎えました。

世間では、アベノミクスの効果？で景気が回復しつつあるようですが、医療を取り巻く環境は、医療政策の目まぐるしい変化に伴い、ますます厳しくなることが予測され、病院経営もその手腕が問われる時代となりました。昨年度の診療報酬改定においても、当院では、引き続きのマイナス改定と厳しい結果となりました。

高齢者医療を主体とする当院にとって、今後の診療報酬改定の動向に留意するとともに、新たに政府が提唱している「2025年モデル」に着目する必要があります。政府は「社会保障と税の一体改革」において、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けた医療と介護のあるべき姿「2025年モデル」という将来像を提示し、その中で「医療機関の機能分化」「医療と介護の連携」「在宅医療の充実」等により、高齢化の進展に伴う医療ニーズに対応していく方向性を打ち出しました。当院を含め医療機関は、このモデルを見据えながら、2025年までに自院の方向性を決めなければなりません。

4万床の削減が予測される一般病床（当院1病棟）のあり方や2017年度末に廃止予定の介護療養病床（当院5病棟）の転換、「施設から在宅」へシフトされる在宅医療やチーム医療へのかかわり等々、地域において当院が、どの役割を担い、また何を期待されているのか、患者さまにとって何が良いかなどその選択肢は様々です。いずれにしても病院にとっても、地域の皆様にとっても、最良的回答を見出さなければなりません。

一方で、厚生労働省は「4疾病・5事業」に、新たに精神疾患を加えて「5疾病・5事業」としました。また、今回公示された福岡県保健医療計画においても、新たに精神疾患を加えた医療提供体制の確保に関する様々な取り組みが示されました。認知症を専門とする当院については、患者さまのニーズに、より応えられる機会と捉え、また、精神科（当院2病棟）と内科の協働ができる当院の特色を最大限に活用し、福岡市西区、糸島地区の中核となる認知症専門病院として、質の向上に向けた対応に努めていく所存であります。

新年度にあたり、「2025年モデル」最良の到達点は「何か？」をテーマとし、これからも公的医療機関である赤十字病院としての使命を忘れず、地域のみなさまや高齢者の方々が、住み慣れた地域や在宅で安心して暮らし続けられるために、今津赤十字病院は「全職員でサポートする！」という強い決意で臨んで参ります。



1929年(昭和4年)～



事務部長  
さいとうあきのぶ  
**西藤彰信**

# 新任ドクター紹介

はじめまして、平成25年4月から今津赤十字病院に赴任して参りました坂元亮太と申します。昨年は精神科レジデントとして小倉医療センターで1年間勤務いたしました。

今津赤十字病院では認知症を初めとする高齢者医療に力を入れています。現在では認知症の患者さまの数が増えてきたこともあり、認知症についてよく耳にするようになりました。

医学も日々進歩しており、新しい薬が開発されるなど認知症の治療も変わってきました。認知症には様々なものがあり、認知症が疑われたら早めに受診することをお勧めします。また、認知症は進行性の病気でありますので、認知機能の低下だけでなく、不眠、興奮、徘徊などの周辺症状が悪化し患者さま自身、ご家族の介護が大変になってくることがあります。そのような症状を改善するために当院にて対応させていただきます。

まだまだ未熟でありますが、地域の皆様方に役立てるように勤めていくつもりです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



精神科医師  
さか もと りょう た  
**坂 元 亮 太**

# 新任職員紹介

4月1日より今津赤十字病院に勤務しております医事課長の山下利典と申します。以前は嘉麻赤十字病院、福岡赤十字病院に勤務しており、医療事務や病診連携、病床管理、健診等の業務を行っていました。自宅が宗像市で毎日都市高速を使って車通勤しています。車の運転は得意ではありませんが、今津の海を見ると心が癒やされ、疲れや緊張が吹っ飛びます。

今津赤十字病院は、内科の専門治療と併せて高齢者認知症の専門治療ができる特性をもつた、九州でも数少ない病院のひとつです。このような病院のスタッフの一員として仕事ができる事を誇りに思っています。

病院の業務をとおして、地域の皆様のお役に少しでも立てるよう、「和合」をモットーに、一生懸命がんばりますのでどうかよろしくお願ひいたします。



医事課長  
やま し と し のり  
**山 下 利 典**

当院では平成24年4月より、地域医療連携室に看護師が配属されています。前任の原田医療社会事業課長にかかり、平成25年3月18日より、病棟所属から異動になりました酒井恭子と申します。

近年の少子高齢化、核家族化、所得格差、社会保障・医療制度改革など、必ずしも安心して病院に受診・入院できる状況にはないという不安をお持ちの方、また、できるだけ自宅で生活したいと思いながらも、ご家族の介護負担を想い、その希望を伝えられずにいる方も、少なからずいらっしゃるのではないかでしょうか。

当院の地域医療連携室には、看護師の他、医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士、総勢5名が所属し、このようなご心配・ご要望など、皆様のご相談を受け付けております。治療後もその人らしい生活が送れるよう、医療と福祉の架け橋として、頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



地域医療連携室  
看護主任  
さか い きょう こ  
**酒 井 恭 子**



# ナースのまど



## ～高齢者看護について考えること～



看護部長

みや さき くにこ  
宮崎 久仁子

皆様、新年度を迎えられ、いかがお過ごでしようか。

当院の看護部も新人を迎えて、心新たに看護の質向上をめざして努めて行こうと思っております。

私は、今津赤十字病院に赴任して4年、看護部長を拝命して3年が経過しました。前勤務地の急性期病院では、小児科・産婦人科・手術室等の勤務が長かったせいか、高齢者の多さと医療のペースの違いに戸惑いを感じました。最近漸く慣れてきたように思います。今回この場を通して、私の感じている高齢者看護について書きたいと思います。

最初に感じたことは、“高齢者はいい塩梅に治療する”ということです。いい加減に治療してよいということだけでなく、高齢者の体のことを熟知して、高齢者のペースで治療を進めていくということだと思います。高齢者には、強い薬は病気を治すだけでなく他の臓器を痛める危険性があるので、患者さまにあつた薬でゆっくり状態を見ながら根気強く治療しなければなりません。看護師は、そのことを知り他の残存機能を維持しながら、常に細心の注意を払い、患者さまの状態を観察する必要があります。

次に、高齢者の方とのコミュニケーションを保つことが難しいことです。「痛い」「苦しい」と自分で訴えることができず、看護師の観察力・推察力に任されています。看護師が、布団を上手にかけず寒くても何も言えない、また、点滴が漏れても痛いと言えないのです。このことは、看護師が十分肝に銘じる必要があります。看護師は、部屋を出る際、患者さまにとって快適な環境であるか、満足のいく行為であったかを振り返ることが大切です。

3番目に、患者さまの尊厳を守ることです。このことは、病院理念にも謳われており当然のことですが、意思疎通が困難であればより難しいことがあるようにも思えます。人生の終末を迎える患者さまにとって、“今まで生きてきた人生が幸福だった”とご家族とともに思える関わりをすることもその一つだと考えています。最近、リビングウィルや事前指示書などの話題があります。当院もこのことにそろそろ取り組む時期ではと考えています。

最後に、“高齢者が、住み慣れた所でいつまでも自分らしく生き生きと暮らしてもらいたい”ということです。他者の力を借りながらも自分のできることを懸命に行い、日常の生活を行うことがすばらしいことだと思います。そのためには、ご家族の協力、行政の支援、訪問看護等の利用をしていただくことを願います。このことが、自助・公助・共助ということだと思います。当院は、このことが円滑に行えるよう、看護師・医療ソーシャルワーカー・ケアマネージャー等が協力して活動できる体制をとっています。

今津赤十字病院は、“日々の生活がその人らしく、健やかで、豊かであるように維持される”ことをめざし、高齢者を大切にし、高齢者・ご家族の思いに寄り添った看護を提供したいと思っています。今後ともよろしくお願ひします。



# 当院の医療安全活動について

医療安全推進室  
放射線技術課長  
三谷 孝二

当院では、患者さまに安全な医療を提供する目的で、各部門の委員で構成するリスクマネジメント委員会と医療安全推進室を設置し、医療安全に対しての活動を行っています。

リスクマネジメント委員会では、各部門から提出されたインシデント・アクシデントレポートをもとに、院内で起こった事例について報告し、再発防止に向けて情報の共有化、対策等について協議しています。

次に、医療安全推進室では、職員に対して医療事故防止に向けての提案、情報提供、医療安全ラウンドおよび研修の企画・運営などを行い、医療安全についての知識向上ならびに意識を高めるような教育活動を行っています。

そこで、今回は当院で実際に起こった過去の事例をもとに、取り組んでいる活動を二つ紹介したいと思います。

## 患者誤認に対する取り組み

当院では、患者さまやお付添いの方にお名前の確認をする際、フルネームでお答え頂くようにしています。これは、過去に患者さまが自分の名前が呼ばれたものと勘違いし、診察や検査等を受けられたことがあるためです。また、同姓同名の方や似たような名前の方がおられる場合は、あらかじめ関係部署のスタッフに周知するようにしています。

## 転倒防止に対する取り組み

当院では、ご高齢者や認知症の患者さまが多いため、転倒転落に関する報告件数が最も多くなっています。このため、患者さまの転倒転落のリスクを関係スタッフに周知するとともに、療養環境の整備や離床センサーを活用することで事故を少しでも減らせるように取り組んでいます。

## 医療用センサーの紹介

### 車椅子離床センサー



車椅子から立ち上がると、音が鳴ります

### ベッド用離床センサー



ベッドから起き上がると音が鳴り、連動してナースコールも鳴ります

安全な医療の提供のためには、患者さま・ご家族および病院スタッフとの協力が欠かせません。ご不明な点、お聞きになりたいことがございましたら、お気軽に職員までお尋ねください。



今回、薬剤部からの薬剤に関する情報は、日頃疑問に思っておられることについてQ&Aの形でお答えしたいと思います。

**Q1 どうしてほとんどの薬剤の服用は食後30分となっているの？**

空腹時の服用で胃を悪くすることを避けるためです。食後30分というのは、飲み忘れを避けるために30分以内と説明しています。



調剤課長  
よし はら あつ ふみ  
**吉原 敦史**

**Q2 どうして漢方薬などは食前に服用するの？**

漢方薬はエキスを顆粒にした分、吸収を少しでもよくするために食前に服用します。しかし食後に胃が悪くならないよう服用することもあります。また忘れた時は食後に服用してください。

**Q3 薬剤の飲み合わせはだいじょうぶなの？**

相互に作用が増強する薬剤が併用されていても、それを考慮の上で処方されていますのでご安心ください。ただし、降圧剤についてはめまい、ふらつき、立ちくらみの症状が発現したり血糖降下剤については低血糖症状が発現した時は、主治医に必ず報告してください。薬用量の調節が必要な場合があります。

**Q4 薬剤と食物の食べ合わせはだいじょうぶなの？**

一部の血圧降下剤や高脂血症治療薬とグレープフルーツやグレープフルーツジュースの摂取は避けてください。薬剤の作用が増強されます。その他の情報も含めて薬剤師から説明を受けたり、薬剤情報提供書の説明書きをお読みください。



## 標準負担額減額認定証について

市民税非課税の世帯の方は事前に申請をすることにより、入院時の食事標準負担額が減額されます。

**申請窓口 住所地の区役所 保険年金課**

### 入院時食事標準負担額

70歳未満

70歳以上

◇算定例(70歳以上の場合)

標準負担額(1食)	
上位所得者	260円
一般	260円
低所得者	210円

標準負担額(1食)	
現役並み所得者	260円
一般	260円
低所得者Ⅱ	210円
低所得者Ⅰ	100円

[未申請]260円 \* 朝.昼.夕=780円  
30日で23400円

[申請後]210円 \* 朝.昼.夕=630円  
30日で18900円 4500円安くなります。

[低・長期]160円 \* 朝.昼.夕=480円  
30日で14400円 9000円安くなります。

●詳しいことは、区役所の窓口もしくは今津赤十字病院医事課までお尋ねください。

第1回

# 連携先リレー紹介

当院では、地域貢献として、地域にある介護保険施設との連携を大切にしています。このコーナーでは、リレー方式で各施設の方に登場していただき、連携について語っていただきます。第1回目は、糸島市にあります特別養護老人ホーム富の里さん、特別養護老人ホーム志摩園さんです。

## 特別養護老人ホーム富の里の紹介

富の里 施設長 平田 直之 様

富の里は、昭和57年に糸島市(旧前原町)に特別養護老人ホームを開設したのを始まりとしています。現在は、グループホーム及び通所サービスまた訪問サービスを併せ持つ高齢者福祉施設となっています。利用者の方々の特徴として、重度化がすすんでいると同時に認知症による行動障害に対して手厚い介護が必要となっていることがあげられます。今津赤十字病院とは、特別養護老人ホームとグループホームの協力病院として、利用者の方々の医療的なサポートを担ってもらっています。富の里は介護施設であるため、協力病院として特に夜間などの急変時に適切に対応してもらえる医療機関の存在は欠かせないと感じています。今後ますます介護と医療の連携が必要となる時代となるため、今以上の連携を深められるように、利用者を中心とした信頼関係を築いていきたいと考えています。



▲施設外観



地域交流会▶

## 特別養護老人ホーム志摩園の紹介

志摩園 施設長 黒澤 明 様

志摩園のある糸島市志摩久家(くが)から今津赤十字病院様まで片道約17km、車で35分の道のりを定期受診等で週に2~3回は通います。病院内に待機していると、先生もスタッフの皆さんも笑顔でいつも声をかけてくださるので、私たちは安心します。また、どの患者さまにもできる限り、待ち時間が短くて済むように配慮していただき、入所者の皆様の心身の負担の軽減につながっています。なんといっても、診療時間外であっても指示をいただけたり、診察してもらえますし、緊急の入院も受け入れてくださることは、とても心強い存在です。老人ホームでは今後、医療的ケアが必要な方がもっと増えることが予測されるなか、各種院内研修会にも参加させていただくなど、志摩園はこのように多方面におよぶ、細やかなサービスの恩恵に与り、いつも頼りにさせていただいている。



施設外観



## ◆マラソン大会で地域との交流を実感◆

1病棟(内科病棟) 看護主任 水口 健創



今年で43回目を迎えた糸島駅伝大会に、2月、病院チームとして、初めて出場しました。選手全員が力を出しきり、最後まで頑張ってタスキをつなぎ、完走することができました。結果は、51チーム中21位と初出場ながら好成績をおさめました。また、駅伝大会後に行われたミニマラソン大会では、飛び入り参加した職員の娘さん達が、小学生女子の部で2位、3位になり表彰されるという快挙の出来事まで起これ、二重に嬉しかったです。この大会を通して、選手や応援してくれた人との絆が強くなつたように感じています。

今後も地域医療を支える施設として、医療だけでなく、このような大会に参加することで、地域との交流を深め、少しでも活性化に貢献していきたいと思っています。(私は写真に写っていませんが、濱永看護師は、中央に写っています)

## 診療案内

- ◆診療科目／内科・精神科(認知症)・神経内科・胃腸科・循環器科・リハビリテーション科・放射線科
- ◆受付時間／(月曜日～金曜日)午前8時30分～午前11時30分及び午後1時30分～午後3時30分
- ◆休診日／土曜・日曜・祝日、年末年始(12月29日～1月3日)、日本赤十字社創立記念日(5月1日)
- ※ご不明な点がございましたら、お気軽に病院までお問い合わせください。

## 今津赤十字病院 外来診療担当表

平成25年4月1日現在

診療科目		月	火	水	木	金	土	日
内科	午前	初診 森 佐保	尾前・森	関 拓紀	瀧井 美咲	大石 絵美		
		尾前 豪	藤井 弘二	藤井 弘二	藤井 弘二(生活習慣病)	藤井 弘二		
	再診		納富 昭光	尾前 豪	大石 絵美	森 佐保		
				古瀬 正徳				
精神科	午後(初診及び再診)	古瀬 正徳	大石 絵美	関 拓紀	瀧井 美咲	尾前 豪		
	午前 (再診のみ)	田中 和宏	坂元 亮太	勝治 一夫	田中 和宏	坂元 亮太		
	午後 認知症外来 (新患・予約制)	田中 和宏	田中 和宏	田中・勝治	田中 和宏	田中 和宏	デイケア のみ	デイケア のみ
	坂元 亮太	坂元 亮太	坂元 亮太			坂元 亮太		

## 交通アクセス

### ◆JRでのアクセス

- JR九大学研都市駅下車の場合  
JR九大学研都市駅南口前より病院無料送迎  
バスをご利用ください。  
(下記時刻表を参照ください)
- JR今宿駅下車の場合  
昭和バス「今宿駅前」バス停より、「西の浦行き」  
乗車、「日赤入口」バス停下車、徒歩10分



### ◆お車でのアクセス

- 西九州自動車道今宿ICより約10分

## 無料送迎バス

- ◆送迎時刻表／JR九大学研都市駅南口前より、無料送迎バスを運行しておりますので、お気軽にご利用ください。

便	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
病院→JR九大学研都市駅南口前	8:55	9:35	10:15	10:55	11:30	12:15	12:55	13:35	14:15	14:55
JR九大学研都市駅南口前→病院	9:15	9:55	10:35	11:15	11:55	12:35	13:15	13:55	14:35	15:15
運行日	平 日	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	土日祝祭日	—	○	○	○	○	—	—	○	—

※平成24年1月4日改正



JR九大学研都市駅南口前です。



今津赤十字病院

日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

〒819-0165 福岡市西区今津377番地  
TEL(092)806-2111(代表) FAX(092)806-2314  
ホームページ <http://www.fukuoka.jrc.or.jp/imazu/>

広報誌／今津日赤だよりvol.17  
発行日／平成25年5月21日  
発行責任者／藤井 弘二  
編集委員長／西藤 彰信  
発行／今津赤十字病院



表紙写真／病院裏の公園で色鮮やかに咲くつつじ